

科目名	金融論B Finance B						
科目担当者	宮永 雅行 MIYANAGA Masayuki						
単位数	2	配当年次	2年	授業形態	講義	開講学期	後期
履修学部・学科 [区分]	経営学部・経営学科 [専門教育科目 専門科目] 法学部・法律学科 [専門教育科目 関連科目]				ディプロマポリシーとの関連	(3)(4)	
授業の概要	金融論というとすぐに頭に浮かぶのは金融市場だが、その本質を理解するためにはお金がどう流れ、どのように経済の変化をもたらしているかという点を学ぶ必要がある。お金の流れがもたらす経済変化という金利の変化、物価の変化、為替レートの変化、景気の変化、そして最初にあげた金融市場の変化などがあげられるが、これらの変化は政治の変化、国家間の紛争などにもつながってくる。こう考えると金融が正常に機能している状態を維持させることがいかに大事かということがわかっていただけたらと思う。この時間はお金の流れを学習することで金融とは何かについて考えていきたい。また私は証券会社、銀行の実務経験が長いので、具体的な経験も踏まえて皆さんが理解しやすい授業となるよう努めていきたい。						
授業の到達目標	<p>経済循環を通して信用通貨の動きや機能を理解する。また、金融全般についての基礎知識を養う。</p> <p>この授業を通じて獲得すべき能力</p> <p>①お金の動きが経済を動かしていることを実感できる。 ②お金の動きを予測することで経済の動きを予想できる ③お金にまつわる経済部門の役割を理解できる。 ④金融について興味を持ち、経済の動きに関心を持つことができる。 ⑤経済新聞や経済記事を読み理解できる。</p>						
授業計画・内容	1	実際の世界経済を考える (物価、賃金、金利)					
	2	為替レートを中心に日本経済の推移を確認する					
	3	物価と為替レート (購買力平価とは)					
	4	為替レートを変化させる要因					
	5	中央銀行の役割 (中央銀行を中心とする決済システムと役割)					
	6	中央銀行の役割 (金融政策とそのメカニズム)					
	7	中央銀行の役割 (デフレとゼロ金利政策)					
	8	中央銀行の役割 (非伝統的政策とアベノミクス)					
	9	中央銀行の歴史 (独立性の重要性)					
	10	需給ギャップと潜在 GDP					
	11	金融政策の実際 (買いオペレーション、売りオペレーション)					
	12	マネタリーベースとマネーストックおよび信用創造					
	13	金融政策を裏付ける理論 (投資の限界効率、流動性選好論)					
	14	IS・LM 分析の理解					
	15	まとめ					
授業外学修 (事前学修)	毎回、Moodle に事前に掲載した次回授業内容の PDF を熟読し、自分なりにノートにまとめてみる。(毎週 2 時間程度)						
授業外学修 (事後学修)	毎回、授業内容について要点を整理し、不明な個所を調べておく。(毎週 2 時間程度)						
成績評価方法・ 評価比率・到達 目標との対応	成績評価方法				評価比率	到達目標との対応	
	定期試験 2 回の課題の提出				70% 30%	①②③④⑤ ①②③④⑤	
成績評価基準	秀： (評点 90 点以上) 到達目標を極めて高い水準で達成している場合 優： (評点 80 点～89 点) 到達目標を高い水準で達成している場合 良： (評点 70 点～79 点) 到達目標を一定の水準で達成している場合 可： (評点 60 点～69 点) 到達目標を最低限の水準で達成している場合 不可： (評点 60 点未満) 到達目標に達していない場合						
教科書	資料						
参考文献							
その他							